

# 第1号議案

## 2018年度事業報告について

2018年度は、神戸国際フルートコンクールの優勝者によるリサイタルや市民オペラ、CLASSIC PLUS など、音楽の魅力を一体的に力強く発信する「KOBE ミュージックポート～冬の音楽祭～」の開催や、地元経済界を中心に神戸の芸術文化に対する活動の援助を行う「神戸文化マザーポートクラブ」の立ち上げ等、市民や経済界等との幅広い連携を行い、活動に臨んだ年度であった。

そのなかにおいて、当財団は事業環境にも大きな変化があったが、主要事業である文化振興事業、演奏事業、神戸文化ホール事業、神戸アートビレッジセンター事業、区民センター事業の各事業について、着実に取り組みを進めた。

### (1) 神戸市室内管弦楽団として新たな活動を展開

2018年度よりホルン・オーボエ奏者を加えることで、演奏できる曲目の増加やアンサンブル能力の向上を図るとともに、楽団名を神戸市室内合奏団から「神戸市室内管弦楽団」に改めた。

また、多くの市民から親しまれ、「私たちの楽団」として市民が誇れる楽団を目指して、神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団はインリーチやアウトリーチ、まちなかコンサートを開催し、両楽団の周知・魅力発信につなげた。

### (2) 「KOBE ミュージックポート～冬の音楽祭～」の開催

「第9回神戸国際フルートコンクール」の優勝者リサイタルやオーデションで選出された市民を中心として作り上げる市民オペラ「オペラ de 神戸」、神戸ゆかりの音楽家を招聘し、ファッション、スイーツなどとコラボレーションさせクラシック音楽の普及を図る「CLASSIC PLUS」など、さまざまな音楽事業を連携させた冬の一大イベント「KOBE ミュージックポート～冬の音楽祭～」を開催し、神戸の街の活性化を図った。

### (3) 地元経済界とともに実現する神戸文化の創造発信

神戸の文化を地元経済界とともに盛り上げ、発信していくため、地元経済界を中心として構成する「神戸文化マザーポートクラブ」の立ち上げに協力し、神戸出身のアーティストなどによる演奏会や市民オペラ等、神戸らしい芸術文化事業への支援等により神戸文化の創造発信に繋がった。

### (4) 「ART LEAP 2018」の開催

ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナーや横浜トリエンナーレでアーティストック・ディレクターなどを歴任された建畠哲氏を審査員に、中堅作家を対象にした公募企画展覧会を実施し、中堅作家の作品創作及び発表の機会を創出した。

選出された「tuQmo」(ツクモ)は、彫刻家池田精堂とポールダンサーERIKA RELAXによる新ユニットで、「道具とサーカス」というテーマで展示及びパフォーマンスを行った。

## 2 事業の実施状況

### 公益目的事業

#### 1 文化振興事業

##### (1) 事業方針

- ・市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ・芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ・市民参加型芸術文化事業の充実
- ・地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ・情報収集・提供の充実（多様な文化芸術の紹介）
- ・芸術文化を担う人材の育成

##### (2) 事業内容

###### ①市民の文化の向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術文化の鑑賞機会として、国内外で活躍する音楽家集団「アンサンブル・ラロ」による室内楽コンサート「ウィーンの情熱」を開催した。また、「第9回神戸国際フルートコンクール」優勝者などによる市内小学校でのアウトリーチプログラムを実施し、子どもたちがアーティストとの交流を通じ、質の高い芸術に触れる機会を創出。加えて病院などにおいてもプロのアーティストによるプログラムを実施することにより、ホールに来ることが困難な人に対する鑑賞機会の提供を図った。

###### ②芸術文化による神戸ブランドの創造発信

「オペラ de 神戸」などの個性豊かな芸術文化事業を通じて神戸ブランドの創造発信を行うとともに、「ジャズの街神戸」推進協議会の事業では、中学・高校生による「神戸ユースジャズオーケストラ」の活動を推進し、ラジオ番組「KOBE JAZZ-PHONIC RADIO」の放送や、「KOBE JAZZ DAY 2018」を開催した。

また、2019年秋に世界的に活躍する現代アートの作家2人（グレゴール・シュナイダー、やなぎみわ）を招聘して行う展覧会「アート・プロジェクト KOBE 2019：TRANS-」（以下「TRANS-KOBE」という。）において準備を進めた。

###### ③市民参加型芸術文化事業の充実

公演などの鑑賞だけでなく、市民が芸術文化活動を発表する機会や場を創出するため、「フルート500人アンサンブル」、「60歳からのデビュー・あなたにシャンソンを」等の市民参加型事業を展開した。

また、「TRANS-KOBE」開催に伴い、地元集うアーティストやクリエイターと連携し、アートを楽しむきっかけとなる機会を提供するため、市民や来場者が参加できるパブリックプログラムを公募し、6件のプログラムを選定した。

###### ④地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体の活動を支援するとともに、協力関係の強化を図った。また、「神戸市吹奏楽祭」、「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL」などを通じて、今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援した。

###### ⑤情報収集・提供の充実

多種多様な芸術文化活動を広く紹介するため「KOBE C情報」を発行するとともに、インターネット（ホームページ、SNS）等の手法を用いて積極的な情報収集・発信を行った。

#### ⑥芸術文化を担う人材の育成

各種事業を通じて、アートマネジメント能力の深化や向上を図るとともに、市民及び学生のボランティアスタッフを活用するなど「担い手」の養成・機会確保に努めた。

## 2 演奏事業

- ・神戸文化ホールおよび区民ホール等における質の高い演奏の提供
- ・演奏水準のさらなる向上
- ・広報強化・アウトリーチの実施による両楽団の周知
- ・自主公演への集客強化と新たな依頼公演の獲得

### (2) 事業内容

#### ①神戸市室内管弦団

国内外で活躍する指揮者・ソリストをゲストとして招聘し、演奏会の充実を図った。特に、定期演奏会では「新しい音楽への希求、3つの世紀それぞれの場合」をシーズンテーマに、鈴木秀美、イエルーン・ベルワルツといった魅力的なゲストとともに公演した。

また、「CLASSIC PLUS」では、指揮者に鈴木優人、ソリストに瀧村依里といった神戸ゆかりの演奏者を招聘し、神戸タータンやスイーツとコラボレーションした特別演奏会を開催するとともに、音楽評論家による公開講座や指揮者・ソリスト・コンサートマスターによる高校へのアウトリーチなどを実施した。

#### ②神戸市混声合唱団

秋の定期演奏会では、指揮に佐藤正浩を迎え、G. ロッシーニの小荘厳ミサを2台のピアノとハルモニウムでお贈りした。春の定期演奏会では、新しいレパートリーの確立、合唱技術の向上のため、世界的な合唱指揮者トヌ・カリユステを招聘し、エストニアにおけるロマン派から現代までの曲をアカペラで演奏した。

#### ③両団周知の取り組み

大阪城ホールでの「サントリー1万人の第九」をはじめ、奈良県文化会館国際ホールや赤穂市文化会館など他都市での公演に出演し、新たな依頼公演につなげた。また、イオンモール神戸北やIKEA神戸など多くの方が集まる施設でのアウトリーチを行い、両団の魅力発信に努めた。

項目	自主公演 (講座等含む)	依頼公演	合計
公演数	57公演	83公演	140公演
入場者数	13,642人	37,414人	51,056人

### 3 神戸文化ホール公演事業

#### (1) 方針

- ・文化ホールを拠点とした芸術創造・発信事業の積極的な展開
- ・優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供及び鑑賞教室や解説セミナーなどの実施
- ・財団のネットワークを活用した市民・芸術家・文化団体などとの交流及び連携事業の実施

#### (2) 事業内容

##### ①芸術創造・発信事業

神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団による定期的な公演を実施し、財団の特徴ともいえる音楽事業の充実に努めた。

また、若手落語家と組んだ大倉亭では新しく誕生した喜楽館のPRに務め、神戸能楽協会と組んだ神戸能では新しい観客の開拓に取り組むことによって、市内における伝統芸能や古典芸能の発展の一翼を担った。

##### ②教育普及・育成事業

毎年取り組んでいる能、狂言、歌舞伎の鑑賞教室や解説セミナー、また市内の小学6年生を招待する劇団四季「こころの劇場」に加えて、新たな事業としてサマージャンボリーを立ち上げた。この事業は、ホールを“広場”に見立て、幅広い世代が気軽に来館し、アートに親しみ交流することを目的として開催し、多くの家族連れに来場していただくことができた。

また欧州唯一の日本人芸術監督として活躍する舞踊家 森優貴によるアウトリーチ事業を実施し、教育普及事業の対象を高校生にも広げた。

##### ③鑑賞・学習事業

恒例の「東西落語名人選」や「松竹大歌舞伎（座頭 片岡愛之助／義経千本桜）」に取り組むとともに、新たな観客層の開拓を目指して精巧大型人形劇「三国志」やホール史上初の舞踏公演 大駱駝艦・天賦典式「パラダイス」など、演劇やダンス部門で新しい事業に積極的に取り組んだ。

また映画事業「文化ホールキネマ」でも“文化ホールならではの”の作品選びや他事業との連携などを心掛け、企画性を高めた。

#### (3) 文化ホール公演事業実績

##### 〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
芸術創造・発信事業	16(4)	24(5)	6,151
教育普及・育成事業	11	23	21,188
鑑賞・学習事業	17(2)	24(9)	12,779
合計	44(6)	71(14)	40,118

※ 尚、大ホールの天井及び壁面の修復工事に伴う休館により、芸術創造・発信事業の内4事業5公演、鑑賞・学習事業の内2事業9公演は中止もしくは他会場での開催となり文化ホールでは実施出来ず。

〈部門別〉

	事業数	公演数	入場者数	備 考
音 楽	18(5)	19(12)	10,535	クラシック15 ジャズ1 ポピュラー4 邦楽3
舞 踊	2(1)	2(2)	2,294	バレエ2 舞踏1
演 劇	4	12	17,104	能1 歌舞伎1 ミュージカル1、人形劇1
演 芸	12	26	6,405	落語8 映画4
その他	8	12	3,780	セミナー4(能3、舞踏1) ワークショップ2(歌舞伎1、狂言1) アウトリーチ1(ダンス1)、フェスティバル1
合 計	44(6)	71(14)	40,118	

※ 尚、大ホール天井及び壁面の修復工事に伴う休館により、音楽部門の内5事業12公演、舞踊部門の内1事業2公演は中止もしくは他会場での開催となり文化ホールでは実施出来ず。

## 4 神戸文化ホール貸館・管理事業

### (1) 事業方針

- ・弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ・施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営
- ・文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援
- ・基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

### (2) 事業内容

#### ①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、利用者ニーズに応じた弾力的な運用を継続実施した。

また、体制を強化した舞台スタッフによる専門性の高い舞台表現に対するアドバイスと舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営で利用者をサポートした。

#### ②施設利用者、来館者のご意見を反映したホール運営

利用後のアンケート調査や「お客様の声 BOX」でお寄せいただいたご意見・ご要望を基に、ホール運営全般の改善に努めた。具体的には、オペレーターを増員して、チケット電話予約への迅速な対応を行った。

#### ③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手アーティストを支援

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続して実施した。

また、若手芸術家の発表及び交流の場としての大ホールのロビー活用を継続した。

#### ④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

ホール全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行うとともに、屋上防水工事の実施やトイレ改修に向けた準備など老朽化した施設・設備の改修に取り組んだ。

また、平成30年10月21日に大ホール2階の観客席天井部分の化粧板の一部が落下する事故が発生した。怪我人等はなかったものの、その後の調査で大ホールの壁面部分においても剥離の可能性が示唆されたため、一体的な改修工事を実施した。平成31年1月31日までの休館を余儀なくされたが、この間におけるお客様の安全管理や、貸館の代替対応等市と連携し、職員一丸となって対応に努めた。

### (3) 貸館・管理事業実績

		大ホール	中ホール	練習場	合計
利用件数(件)		201	252	3,405	3,858
入場者数(人)		249,513	134,534	59,726	443,773
利用率 (%)	踏入率	87.1	92.7	89.9	
	実利用率	77.4	84.3	80.9	

(※収益事業による利用を含む)

## 5 神戸アートビレッジセンター (KAVC) 事業

### (1) 事業方針

- ・先進的・実験性のある事業の実施
- ・アートの世界への入り口となるワークショップや講座の実施
- ・市内外の文化施設や教育機関等との交流・連携
- ・まちの賑わい及び活性化への寄与

### (2) 事業内容

#### ①演劇・舞踊事業

今まで KAVC に来ていなかったアーティストを呼び込もうと、KAVC 全館使ってアーティストがやりたい企画を実現する「KAVC ART JACK 2018」を開催。2日間で延べ2,500人が演劇・ダンス・美術・インスタレーション等を楽しんだ。また(一財)地域創造と共催で行う現代ダンス活性化事業では、参加者を公募しアーティストとともに新開地商店街を練り歩いた後ホールで公演する「カブキモノ大行列」を行った。

#### ②美術事業

30歳代・40歳代の中堅作家を対象にした公募プログラム「ART LEAP 2018」を開催したほか、シルクスクリーン技法本「### (メッシュ)」vol.4、vol.5を発行し、シリーズが完結した。シルクスクリーンのワークショップは KAVC 以外にも芦屋市立美術館、東急ハンズ心齋橋店など外部においても行った。

#### ③映像事業

KAVC CINEMA として、毎月映画の上映を行った。商業的なシネマコンプレックスでは取扱いの少ないドキュメンタリー作品や、演劇や音楽などアートを題材にした作品を主に選択して通常番組を編成した。また、特集では80年代映画や喜劇映画など、テーマを基に昔のフィルム作品も積極的に上映した。また、新開地・元町の単館映画館4館と連携してCINEMA PORT フェスを開催した。

#### ④音楽・地域事業

夏に例年開催している KAVC 1Fの大きな窓ガラスに絵を描く「でっかあーい窓ガラスにみんなで大きな絵を描こう!!・消そう!!」や、干支のイノシシの生態について学ぶ「ボクはイノシシ」、節分の鬼のお面をつくる「色とりどりの鬼のお面を作ろう!」など、子ども向けのプログラムの充実を図った。

### (3) 神戸アートビレッジセンター事業実績

#### 〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
演劇・舞踊事業	25	166	8,204
美術事業	18	159	2,677
映像事業	23	501	5,521
音楽・地域事業	20	59	7,965
合計	86	885	24,367



## 6 神戸アートビレッジセンター（KAVC）貸館・管理事業

### （1）事業方針

- ・柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供
- ・若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働
- ・複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

### （2）事業内容

#### ①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供

小劇場ならではの柔軟な貸館対応、専門性の高いサービスを提供するとともに、早朝の仕込みや閉館後の撤収など利用者の状況に応じた対応に努めた。

また、アンケートなどで寄せられた来館者のご意見・ご要望に対し速やかに対応するとともに、スタッフ研修等を通じ、共有化を図った。

#### ②地元芸術家・若手芸術家を支援

若手や学生劇団（サークル）など、発表機会の少ない団体への活動支援として、専門スタッフによる打ち合わせ・相談・アドバイスなどサポートを行った。また、1階のコミュニティスペース 1 room でのチラシ設置や神戸アートビレッジセンターの公式サイト内での公演紹介など広報協力を通じて積極的な支援を行った。

一方で、新開地周辺の地域団体との連携・協働によるイベントの実施、あるいは食堂事業の展開などさまざまな事業に関わり、地域の活性化に貢献した。

#### ③安全・安心な管理運営かつ省エネ設備への積極的な投資

安全・安心な管理運営では、日常点検、定期点検、法定点検を着実に実施し、設備の不良箇所への速やかな対応に努めた。神戸市と連携し、給排水管や空調機器など供用開始後 20 年経過し老朽化した設備の改修、更新を実施するとともに、貸出用の備品等を更新し、利用者の要望に応えた。

## 7 区民センター講座・地域連携事業

### (1) 事業方針

- ・「地域住民とともに歩む区民センター」として市民の文化活動ニーズに対応
- ・講座事業や地域連携事業の実施
- ・「区民センターサポーター」などによる事業運営への住民参画
- ・財団が有する文化事業運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用

### (2) 事業内容

#### ①講座事業

入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツ等の講座を、低廉な料金で、春季・秋季の「定例講座」と、季節や住民ニーズ等を反映する「随時講座」を、年間通じて開講した。

新規講座を開設する一方、受講率の低い講座の見直しや講師報酬への歩合制の導入等による収支改善に努め、また、伝統芸能等の伝承等、公益財団法人として取り組む必要のある講座等にも配慮しつつ受講者数の拡大を図った。

#### ②地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

住民の「発表する」ニーズ及び専門家による芸術文化を「鑑賞する」ニーズに応える地域住民参加型の自主事業「イベント事業」や、各地域の歴史や伝統文化、個性を生かしつつ、参加や鑑賞等、住民が芸術文化に触れたり、日頃磨いた技を発表したり、お互いに交流する機会となる「地域文化活性化事業」を企画実施した。

各センターの特色を生かし、地元住民・団体との協働による住民参加型行事に取り組み、地域の大学・高校・中学校・婦人会等と連携した「東灘区民文化祭」や地域に伝わる伝統文化「農村歌舞伎」を北、西区民センターにてそれぞれ実施した。

また、「市民の第九」や「オペラの舞台稽古見学会」など、神戸文化ホールとの連携事業のほか、地域の保育所等に演奏家が赴くアウトリーチ等地域の文化振興のための各区の中核施設にふさわしい管理運営を行った。

#### ③作品展示会・発表会

区民センターのギャラリーやロビー、ホール及び花時計ギャラリーにおいて、講座受講生をはじめとする市民の絵画、陶芸、写真等の作品展示会や舞踊、音楽等の発表会を実施した。

## 8 区民センター貸館・管理事業

### (1) 事業方針

- ・サービスと利便性の向上、利用促進のための料金割引制度、利用団体への広報・相談サポート提供、積極的な広報活動等の実施
- ・長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境の提供

### (2) 事業内容

#### ①サービスと利便性の向上

休館日が祝日にあたる日の開館やインターネット無料接続サービスの提供およびインターネットを利用した予約受付を継続したほか、老朽化したセンターにおいては市と連携してトイレの改修や漏水対策等を実施した。

#### ②地域文化団体との連携強化による情報発信や運営サポート支援

地域文化団体の利用料金割引を実施し、地域団体が利用しやすい環境を整えるとともに、館内の掲示板や区民センターだよりなどを活用し、貸館利用団体のイベントの広報に協力した。

#### ③積極的な貸館セールス

「区民センターだより」発行、区民センター友の会の運営を継続したほか、近隣のマンション管理組合などへの積極的なセールス（ポスティング）等PRを強化した。

#### ④省エネルギーや環境を意識した設備管理

日常的な環境保護の取り組みを広く発信するため、印刷物に神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ2の認証を掲載するとともに、未利用フロアの消灯や電球のLED化などを進め省エネルギー化に取り組んだ。

## 9 広報事業

文化振興事業の市民への周知、文化芸術への市民参加の機会拡充、財団の収益向上等の観点から、財団の広報体制を確立するとともに、多様な手段により、積極的に広報PRに努めた。

### (1) 文化情報誌の発行

	回数	発行部数	備考
KOBE C 情報	12	35,000 部 / 月* ※平成 31 年 10 月号より 50,000 部から 35,000 部に変更	市内をはじめ周辺地域を含めた文化に関する情報を幅広く掲載。 市内公共施設、文化施設、地下鉄各駅など公共交通機関等で配布（毎月 23 日発行）。
ほーるめいと	6	22,000 部 / 隔月	神戸文化ホールの催し物及び神戸市室内合奏団及び神戸市混声合唱団の公演情報を掲載。 友の会会員をはじめ、市内公共施設、文化施設、主要駅などで配布。（隔月 20 日発行）。

### (2) 神戸アートビレッジセンターからの情報発信

	回数	発行部数	備考
マンスリーニュース	12	300 部 / 月	KAVC で開催される自主事業、貸館事業 3 か月間のスケジュールをまとめた冊子。 マスコミや関係各所への発送と、KAVC 館内の設置（毎月月末発行）
アートビレッジボイス	1	10,000 部 / 季刊（年 4 回）	KAVC の催し物や、新開地周辺地区の情報掲載した広報誌（年 4 回発行） 会員を始め全国の美術館、劇場、映画館など文化施設への発送 平成 30 年 3 月にリニューアル号を発行した。

### (3) 区民センターからの情報発信強化

区民センターからの情報発信機能の充実強化を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、区民センターだよりの発行、固定客・リピーター確保のための友の会運営に取り組んだ。

#### (4) インターネットによる情報発信

財団が主催する主要事業等を幅広く紹介するとともに、神戸文化ホールや神戸アートビレッジセンター、区民センターの空室情報や区民センターの講座受講申込、「KOBE C 情報」の内容をホームページで発信した。

また、「ジャズの街神戸」推進協議会のウェブサイト「JAZZ TOWN KOBE」や神戸国際フルートコンクール公式ウェブサイトの運営を行ったほか、ツイッターやフェイスブック、インスタグラム等多様な SNS を活用して、リアルタイムの情報発信に積極的に取り組み、ホームページでは紹介しきれない細かな情報発信、「いいね」「リツイート」による SNS ならではの情報拡散などを行い、事業広報に取り組んだ。

ホームページ訪問者数	2,309,362 人（月平均 192,447 人）
Facebook フォロワー数	4,130 人
Twitter フォロワー数	2,133 人

#### (5) 広報・PRの強化

財団事業を総合的かつ横断的にプロモーションし、公演の入場者数や入場料収入の増加につなげていくため、ホームページの改修等を行った。

また、話題性の高いコラボレーション番組の共同制作・放映、ラジオ番組作成、各種資料提供などマスコミを活用した情報発信に積極的に取り組んだ。

## 収益事業

### <収益事業>

#### (1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンション等文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場等神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、中ホール、リハーサル室、練習室 1～5、  
多目的室、特別控室

自動販売機 : 7 台

駐車場（神戸文化ホール練習場） : 10 台

【貸館利用件数】 大ホール 合計 201 件 うち収益 74 件  
中ホール 合計 252 件 うち収益 57 件

#### (2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

神戸アートビレッジセンターにおいて、地域の集会等文化活動以外を目的とする活動の場を提供した。また、自動販売機設置による利用者へのサービス向上を図った。

※施設概要 多機能ホール、視聴覚ホール、ギャラリー、リハーサル室 1～2、  
会議室 1～2、スタジオ 1～3、lroom 等

自動販売機 : 4 台

【貸館利用件数】

ホール	合計 545 件	うち収益 5 件
シアター	合計 698 件	うち収益 0 件
ギャラリー	合計 609 件	うち収益 2 件
リハーサル室	合計 1136 件	うち収益 49 件
スタジオ	合計 1024 件	うち収益 9 件
アトリエ	合計 92 件	うち収益 0 件
会議室	合計 629 件	うち収益 48 件

#### (3) 区民センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する 7 各区民センターにおいて、美容・スポーツ等の文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催した。

※例 講座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球等

自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会等

【定例講座件数】 合計 1,314 件 うち収益 274 件

【地域連携事業件数】 合計 149 件 うち収益 11 件

#### (4) 区民センター貸館・管理事業

指定管理者である区民センターにおいて、イベント等文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。また自動販売機設置や駐車場等区民センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、会議室、多目的室、和室・音楽室・美術室・陶芸室、  
体育館等

自動販売機 : 21 台

駐車場（北神区民センター） : 123 台

【貸館利用件数】 合計 44,596 件 うち収益 12,620 件

## 法人管理運営事業（法人運営全体に関わる事業）

### （１）専門性の強化・人材育成

職員の知識向上及びスキルアップを目指し、人材交流を含め当財団内外での研修を充実させるなど、職員一人ひとりの能力・専門性を高め、文化事業を担う団体としての能力向上に努めた。

### （２）効率的な執行体制

神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団の幅広い活動に加え、「KOBE ミュージックポート～冬の音楽祭～」や「TRANS-KOBE」など新規事業の立ち上げに必要な事業間の連携や事業執行の効率化、専門性の向上に必要な財団組織を改正し、効率的な執行体制を確立した。

### （３）経営基盤の強化

事業における更なる経費の見直しやシステムの導入、アウトソーシングによる業務の効率化などを進めるとともに、インリーチ・アウトリーチ事業や「TRANS-KOBE」など公益性の高い事業に対して国等からの外部助成金の積極的な獲得を行った。

### （４）KEMS ステップ２の活動

環境負荷低減を図り、神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ２の認証に基づく取り組みを着実に実施した。

### 3 数値目標

#### 【芸術文化の創造・発信】

	2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
創造発信型事業の数	92	110	113

#### 【普及啓発】

	2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
アウトリーチ実施回数	30	93	64

#### 【国際交流事業】

	2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
海外芸術家等による公演回数	12	15	21

#### 【指定管理施設管理事業】

##### 1 神戸文化ホール

		2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
利用率 (踏入率)	大ホール	82%	87.1%	94.4%
	中ホール	88%	92.7%	94.2%
利用率 (実利用率)	大ホール	72%	77.4%	83.8%
	中ホール	76%	84.3%	85.1%
利用者数	大中ホール	52.5万人	38.4万人	48.8万人
	練習室含む	58.5万人	59.7万人	55.1万人
利用者満足度		95%	97%	95%
友の会 加入数	個人	1,500人	1,265人	1,193人
	法人	12社	-	-

##### 2 神戸アートビレッジセンター

		2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
利用率 (踏入率)	ホール	62.0%	67.2%	60.5%
	シアター	77.0%	81.9%	70.3%
	ギャラリー	77.0%	66.9	68.6%
利用率 (実利用率)	ホール	62.0%	62.0%	53.1%
	シアター	77.0%	77.8%	62.6%
利用者数		179,800人	176,283人	162,791人
利用者満足度		85.0%	99.1%	97.6%

※利用者数には自主事業の利用者数も含む



3 区民センター

		2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
利用率 (踏入率)	全体	78.5%	74.2%	75.4%
	うちホール	72%	70.8%	73%
利用率 (実利用率)	全体	50.5%	49.2%	50.5%
	うちホール	45.5%	45.2%	47%
講座受講者数		25,000人	24,500人	25,300人
利用者満足度		95%	98.0%	95%

【財団管理・経営関係】

	2018年度目標	2018年度実績	2017年度実績
経営目標（年度収支の均衡）	±0	3,011千円	△21,713千円